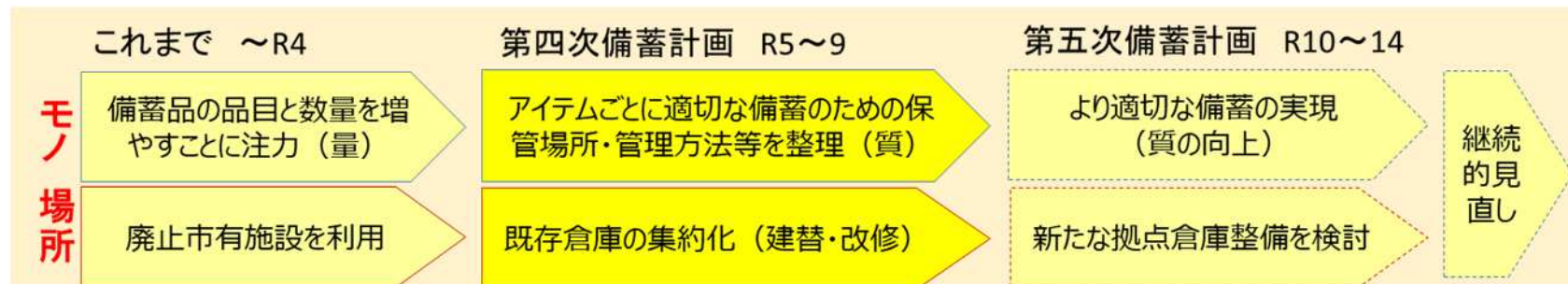


災害時備蓄品等整備計画 の改定について

～第四次長野市災害時備蓄品等整備計画～

令和5年2月1日
総務部 危機管理防災課



1 計画の概要について

現状の課題：①備蓄品の適正管理 ②保管状況の改善 ③発災時の搬出入

備蓄品を適正に管理し、災害時に活かすために、備蓄計画の見直しが必要

(1) 計画改定の趣旨

現行の第三次備蓄品等整備計画が今年度終了することに伴い、現在の備蓄状況を検証し、地域防災計画の見直しのために実施した、**新たな防災アセスメント結果を基に、①備蓄目標数・内容、②拠点備蓄倉庫のあり方等**について、新たな**5カ年計画**を定めるもの。

(2) 基本方針

大規模災害発生時の3日間にわたり物流機能が停止し、他からの支援物資が届かないことを想定し、自助・互助・共助により賄われる備蓄品を補完するための**「公的備蓄」**を定める。

【計画期間】 令和5年度～令和9年度（5カ年計画）

(3) 計画の構成

- | | |
|-------------|----------------------------------------------------------------|
| 第1章 基本方針等 | (基本方針、計画期間・備蓄の区分等) |
| 第2章 公的備蓄 | (食料、飲料水、避難所開設・運営資機材、生活必需品・日常生活用品、救助・水防等資機材、応急救護所運営資機材、感染症対策物品) |
| 第3章 家庭内備蓄等 | (家庭内備蓄、事業所備蓄、流通備蓄、協定等に基づく物資調達) |
| 第4章 防災備蓄倉庫等 | (現状、配置と今後の方向性、当面の整備方針) |
| 資料編 | (倉庫等配置状況、備蓄状況、災害時応援協定等状況) |

2 第三次計画からの主な変更点①

① 備蓄目標数・内容 第2章

(1) R3年度実施の防災アセスメント結果を基に目標数を設定

R3防災アセスメント被害想定 (長野盆地西縁断層帯地震)	H28 アセスメント結果	R3 アセスメント結果	増減率	※主な減少要因は、 人口減少と新耐震基準 建築物の増加による
被災 1日後 避難者数(人)	71,800	53,000	△35%	

主要品目	備蓄状況 (R3年度末)	第3次目標充足率	第4次計画目標数	第4次目標充足率	目標数算出方法 (アセスメントの避難者数を反映)
食料品	292,715食	136%	159,000食	184%	避難者数×3食
飲料水	49,626ℓ	103%	35,000ℓ	142%	避難者数×1ℓ×2/3
トイレ	1,676基	103%	1,389基	121%	避難者数の50人に1基×7割
段ボールベッド	448個	17%	1,325個	34%	避難者数×5%×50%

※再設定

(2) すでに目標を充足した品目 ➔ 扱い易い・高品質のものに移行

扱い易いものの例

フリーズドライのシチュー & ビスケット
(お湯を入れて調理する必要)

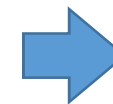


レトルト味付きご飯
(調理不要・アレルギー対応)



高品質の例

簡易洋式
仮設トイレ



簡易水洗型仮
設トイレ



3 第三次計画からの主な変更点②

- (3) 目標が未充足品目 ➡ 必要量の**50%に再設定**、残りはプッシュ型支援・協定先で対応
 該当品目例：段ボールベッド、オムツ（大人用、子ども用）、トイレトーパー

【国プッシュ型支援主要8品目】

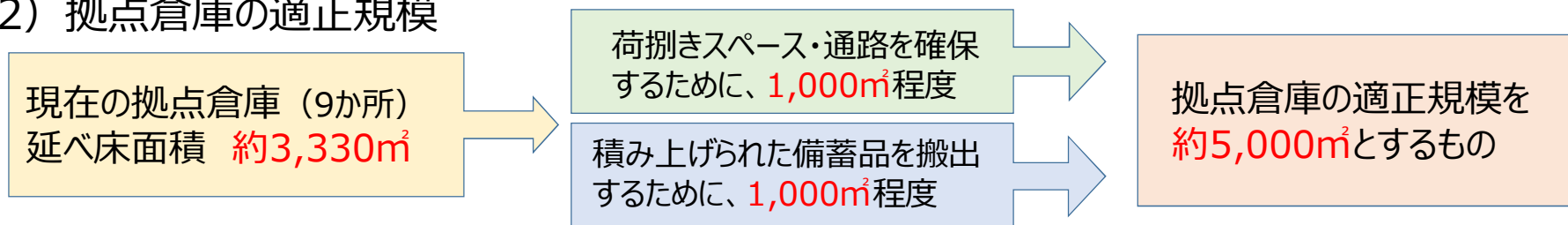
食料、育児用調整粉乳、乳児・小児おむつ、大人用おむつ、携帯用トイレ、簡易トイレ、トイレトーパー

②拠点備蓄倉庫のあり方 第4章

- (1) コンテナ型備蓄倉庫・拠点倉庫・その他備蓄の現状と、倉庫配置の考え方を示す

拠点倉庫	コンテナ型備蓄倉庫等
① 避難所への物品搬入等のため、市内に分散設置 ② 設置場所は人口分布や昼夜の人口変動等を考慮 ③ 物資配送等に効果的な場所を選定 ④ 浸水想定区域・土砂災害警戒区域等を避ける ⑤ 北部と南部に、主要な拠点倉庫を設置し、適切な保管・在庫管理が行えるよう必要な整備を行う	① 避難所・避難場所の敷地内又は近接場所に設置 ② 大規模避難所で設置できる場所から優先的に配置 ③ 特定の地域に偏らないように設置 ④ 設置できない大規模避難所には避難所用備蓄 ⑤ 中山間地の被災者等を守るために、中山間地用備蓄場所・孤立対策食料備蓄を行う

- (2) 拠点倉庫の適正規模



- (3) 拠点倉庫整備の検討の方向性を示し、第5次計画で実現を目指す

- 支援物資の荷捌きが可能な、1,000㎡規模の拠点倉庫を市内2か所に整備することを検討する

4 第四次計画期間中の拠点倉庫整備方針

(1) 本計画期間に実施する拠点倉庫整備方針を定める

■市の北部と南部における主要な拠点倉庫を整備して機能を集約させる。老朽化が著しい施設、交通利便性が悪い施設については、主要な拠点倉庫の整備等に併せて廃止する。

なお、計画期間中においても、他施設との合築や効果的跡利用等が可能であれば検討する

(2) 既存倉庫の集約化（建替・改修）

施設名	第4次備蓄品等整備計画における「整備方針」
①西長野	市北部の主要な倉庫として維持して行くために、倉庫として必要な 改修を実施
②川合新田	土囊等の水防倉庫として維持（老朽化のため、第5次計画期間中の対策を検討）
③長野駅東口公園	建物は新しく立地も利便性が高いため今後も維持
④柳町	市北部の主要な倉庫として維持（合築の柳町老人福祉センターの存廃によって要対応）
⑤氷鉦	市南部の主要な倉庫として維持して行くために 改築を実施
⑥篠ノ井岡田	老朽化が著しく、使い勝手も悪いため収納物品の整理を行った後廃止
⑦信更赤田	交通利便性は低いが面積が大きく収容力が高い施設、第5次計画期間中の対策を検討
⑧戸隠柵	老朽化が著しく、交通の利便性も低いため収納物品整理を行った後廃止
⑨須高行政事務組合	市東部に位置する倉庫として維持（無償借用、必要に応じ第5次計画期間中に検討）

※拠点倉庫とは別にコンテナ型防災備蓄倉庫が46か所ある。今後も増築予定

5 既存拠点倉庫の概要と配置

① 西長野（旧消防西長野分署）	② 川合新田
所在地：大字西長野 建築：平成13年、鉄骨造 築21年、603㎡	所在地：大字川合新田 建築：平成5年、鉄骨造 築29年、133㎡
③ 長野駅東口公園	④ 柳町（旧柳町働く女性の家）
所在地：大字栗田 建築：平成30年、鉄骨造 築4年、94㎡	所在地：大字三輪 建築：昭和52年、鉄骨造 築45年、450㎡
⑤ 氷鉋（旧消防氷鉋分署）	⑥ 篠ノ井岡田（旧岡田児童館）
所在地：稲里町中氷鉋 建築：昭和46年、RC造 築51年、234㎡	所在地：篠ノ井岡田 建築：昭和53年、木造 築44年、305㎡
⑦ 信更赤田（旧更科福祉園）	⑧ 戸隠柵 （旧戸隠リサイクル施設）
所在地：信更町赤田 <体育館> 建築：昭和59年、鉄骨造 築38年、540㎡ <児童棟> 建築：平成13年、RC造 築21年、360㎡	所在地：戸隠栃原 建築：昭和53年、鉄骨造 築44年、434㎡ ※元は民間工場
⑨ 須高行政事務組合 （倉庫の一部を借用）	
所在地：須崎市大字小山 建築：昭和61年、鉄骨造 築36年、200㎡	



6 第四次備蓄計画 策定スケジュール

時期	会議(内容等)
8月22日	政策会議 (検討の方向性について協議)
9月～10月	第四次備蓄計画(素案)を作成
11月22日	政策会議 (第四次備蓄計画(素案)を協議)
12月12日	災害対策等調査研究特別委員会(素案を説明)
12月中	第四次備蓄計画(案)を作成
1月5日	部長会議 (第四次備蓄計画を決定)
1月11日	政策説明会
2月1日	記者会見(計画公表)

今後の取組

- ① 中長期的な拠点倉庫整備計画検討
- ② 在庫管理システム等の導入検討
- ③ 災害時相互応援協定等の拡充
- ④ 家庭内備蓄、事業所備蓄の啓発
- ⑤ 国・県・他自治体との連携
- ⑥ 氷鉋拠点倉庫整備の事業化
(緊急防災・減災事業債の活用)

7 市民及び事業者の皆様へのお願い



計画策定を踏まえ、改めて「家庭内備蓄」「事業所備蓄」を呼び掛けていく。
また、市民の皆様からは、長野市の備蓄計画についてのご意見を頂きたい。

(1) 家庭内備蓄

①一般流通が十分機能していない発災直後から最低3日間（可能なら1週間）は、自ら補えるよう「家庭内備蓄」に努めていただくことをお願いしたい。

②「家庭内備蓄」のポイントは、日常生活でも使用可能でローリングストック※により定期的に更新可能なものが相応しい。

※普段利用する缶詰やレトルト食品などを備蓄食料とし、使った分を買い足し、常に一定量の備蓄がある状態とする

(2) 事業所備蓄

事業者、施設管理者等の皆様には、災害時において来場者や従業員等の安全確保を第一に取り組むとともに、帰宅が困難な場合や事業継続のために必要な備蓄をお願いしたい。

【住民等の責務】 基本理念に基づき、生活必需物資の備蓄その他の自ら災害に備えるための手段を講ずるとともに、防災訓練等への参加、過去の教訓の伝承等防災に寄与するよう努めなければならない（災害対策基本法第7条第3項）